

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2024年3月31日

事業所名 \_\_\_\_\_ 放課後等デイサービスセンターあだち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		感染対策として、机をずらしたり、活動内容を工夫して、密にならないようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	6			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6		全面バリアフリー化している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		毎月一回全体会議を開き、職員が意見を交換出来るようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者からの評価は、職員間で共有し、意見を出し合い改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2		関連機関との連絡を積極的に行い、情報交換に努めるようにしたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2	外部の研修に参加することは時間的に難しいため、内部での勉強会を定期的に行い、各職員のスキルを高めるようにしている。	
適切な	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		常に職員が一緒に考えて立案している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		子どもの発達状況や保護者からのニーズを考慮し、様々な活動を行っている。	レパトリーを1つずつ増やす努力を続けている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		長期休暇の時は、施設外での活動(ハイキング・登山等)を取り入れている。図書館や児童館にも出かけている。	

支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	2		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		打ち合わせ後も、ボードでその日の予定や役割を常時確認出来るようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		子どもの反応や動向で気づいたことがあればその都度伝え、主任が中心となり全職員への情報共有ができています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		記録した情報は、全職員で共有している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	2		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		子どもの安全に配慮しながら、子どもが社会に適応出来るような支援を心掛けている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	現場の主任が参加出来るように、勤務を組み替えて対応している。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		疑問に思ったことは、学校送迎時に、担当教諭に聞くようにしている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		6			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2	保護者様を通して、就学前の情報を教えていただいている。	より多くの情報が必要な場合には、保護者様の了解を得た上で、関係機関に直接連絡を取り、情報共有に努めたい。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		6		まだ該当する児童がいないが、その機会があれば情報の提供を積極的に行う。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	運営母体の精神科クリニックの専門家に助言を受けている。		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		図書館・児童館等に積極的に出かけ、その場に来ている子どもたちと一緒に遊ぶ時間をもうけていく。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		6			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		連絡帳や送迎時の保護者と直接話す機会を活用し、積極的に情報を共有している。		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2		ペアレントトレーニングは大切であるが、研修等で職員のレベルの向上を行う必要がある。	
	保	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		利用開始前にしっかり説明し、ご理解・ご納得をしていただいている。	
		31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		送迎時に保護者と直接会話する時間を設けている。また、必要であれば電話での相談や面談も行っている。	
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		今後開催できるよう、検討していきたい。	

保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			現在大きな苦情は頂いていないが、極力苦情が生じないよう、子どもや保護者様の気持ちに寄り添った療育をしていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		6		会報は発行できていないので、今後の検討課題としたい。
	35	個人情報に十分注意している	6		職員は個人情報の取り扱いについて十分に注意し、外部に持ち出すことがないようにしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年二回、避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		全体会議で虐待予防の研修を実施	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2		該当事例はないが、マニュアルを作成し、保護者・関係者と事前に意見交換をし、理解を得たうえで、行うようにしていきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	利用前に保護者様からしっかりと情報の提供を受けるようにしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		記録をファイリングし、全ての職員がいつでも閲覧できるようにしている。事例を共有することで、事故防止に努めている。	